



新

シャネル
ブルミエール
セラミック
イエローゴールド

ブルミエールの小さな変革。2009年に発表されたモデルは、プレスレットのセンターピースに純白のハイテクセラミックを採用。18KYGとの妙なコンピネーションは、12で培ったセラミックの製造技術を投影したもの。ベゼルに52個のダイヤモンドをセット。クォーツ。182万7000円。(問) シャネル カスタマー・ケア・センター 0120-159-559

シヤネルのファーストウォッチコレクション「ブルミエール」のプレスレットが届いた。クロス装の表紙を捲ると、マリオ・ソレンティが撮影したプロダクト写真の紙焼きが1枚ずつ本文に貼り付けられている。上製の写真集に匹敵する贅沢な仕上げだ。シヤネルの日本法人によると、パリで素材となる紙焼きと簡易な仕様書を作り、それを基に美術書などの印刷・製本を得意とする印刷会社と組んで制作されたのだという。シヤネルの美意識が共有されているからできる。アートディレクションの極意である。ヴァンドーム広場や著名なN°5のボトルストッパーに着想を得たケースのプロポーションという伝統的意匠に、ハイテクセラミックリングやパラストラップを積極的に採用する進取の気性は、1987年の初出以来、時間の流れを超越するべく、はつきりとコード化されたコレクションに明確だ。時代の要請に応じて新しい技術を導入するが、基本のスタイルは変わらない。芸術性を追求するベーパーメディアにおいてもその理念が徹底していることに驚かされる。



CHANEL
新しい
ブルミエールに見る
コレクションブックの美麗

ファーストコレクション「ブルミエール」のニューモデルを網羅したプレスレットはまるで上製美術本のような装丁。カタログの域を超えたその美意識の源泉とは。

Photograph by Masanori Yoshie
Text by Naomasa Furukawa (Chronos-Japan)

Watch
The
New

鋭

ROGER
W. SMITH

マン島より届けられた
ラウンドプレートの
“シリーズ2”

2007年にファーストロットが出荷されたロジャー・スミスの「シリーズ2」。その細部を修正した量産機が発表された。傑作の呼び声高いモデルだが、出来映えはいかに。

Text by Masayuki Hirata



ロジャー W. スミス
シリーズ2

現代風の解釈を加えた、イギリス製腕時計。ダニエルズ・オリジナルのコアクシャル駆動機を搭載し、理論上は高い精度を発揮する。優れた仕上げも魅力だ。手巻き。28石。1万8000振動/時。フリースプランク。18KYG。RG。WG。Pt (直径38mm)。4万2000イギリスポンド。(問) rogersmith@rswatches.com

シヨージ・ゲニエールの愛弟子にあたる、ロジャー・スミス。事実上、彼の標準機にあたるのが「シリーズ2」である。2004年にコンセプトモデルを公開し、受注に応じて市場に投入してきたが、まとまった数がデリバリーされるのは、これが初だ。基本スベックなどは従来に同じだが、仕上げに若干の違いが見受けられる。例えばムーブメントの仕上げは従来はイエローゴールドだったが、新作はイエローゴールドに変更。しかし部分的にローズゴールドを残し、視覚面でメリハリを狙っていることが分かる。またシャントを留めるネジも一部小型化し、同時に脱脂機の受けを一体化するなど、造形面が改善された。

ディテールを含め間違いなく素晴らしい時計だが、不満もある。影り込んで暴入れているインデックスが、今頃はプリントに変更されてしまった。また、平板だったケースサイドやリュウズの仕上げも、従来に同じだ。ただその点に大きな不満を感じなければ、量産のなったシリーズ2は、価値相応の価値を持つと言えるだろう。

